

平成 27 年度

第 3 回加賀市地域公共交通会議

第 2 回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

議事録

日 時 平成 27 年 12 月 25 日 (金)
午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分
場 所 加賀市市民会館 第 2 会議室

平成 27 年度
第 3 回加賀市地域公共交通会議
第 2 回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会

日 時 平成 27 年 12 月 25 日（金）
午前 10 時 00 分～午前 12 時 00 分
場 所 加賀市市民会館 第 2 会議室

1 開会

事務局

定刻になりましたので、平成 27 年度第 3 回加賀市地域公共交通会議、第 2 回加賀市地域公共交通活性化・再生協議会を開催いたします。

本日は、お忙しい中、本会議へご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず始めに、会議の成立報告を申し上げます。本日の会議の出欠状況につきましては、3名の委員が欠席であります。過半数を超える出席となっておりますので、加賀市地域公共交通会議設置要綱第 7 条第 3 項及び加賀市地域公共交通活性化・再生協議会規約第 7 条第 3 項に基づき、本日の会議は成立していることをご報告いたします。

なお近藤会長におかれましては出席の予定でありましたが、急用により欠席の連絡が入っています。そのため本日の議長は、この会議の副会長であります山下副市長にお願いしたいと思います。

それでは、山下副市長よろしく申し上げます。

2 議事

議長

まず、本日の 1 つ目の議事は、「地域公共交通確保維持改善事業」の事業評価についてです。これは国庫補助を受けて実施している事業について、事業の実施状況の確認、目標達成状況などの事業評価を行うものです。それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局

「地域公共交通確保維持改善事業」の事業評価ですが、これは国の補助金を受けて実施した平成 27 年度事業について、加賀市地域公共交通活性化・再生協議会として評価を行うものです。

対象となっている路線については、温泉山中線を除く路線が補助対象となっております。補助を受けるにあたり、協議会としてフィーダー計画と言うものを策定しています。会議資料 2、3 ページに、昨年 10 月に協議会にて承認いただいた加賀市地域内フィーダー系統確保維持計画を記載しています。内容は、路線を運行していく目的や事業の目標などです。路線毎に平均乗車密度を数値目標として設けており、その目標に対して結果がどうであったかを評価するものです。事業評価の内容については、4、5 ページに記載しています。

対象路線数としては、加賀温泉バスが運行する路線が 4 路線、日本海観光バスが運行する路線が 1 路線で、計 5 路線です。

各路線の評価内容については、各運行事業者から説明いただきたいと思いますので、よろしく

お願いします。

議長

はじめに加賀温泉バスについてお願いします。

委員

まず、温泉片山津線ですが、1便の増便及び石川病院への延伸を行いました。1便あたりの乗車密度は2.2人と目標の7.0人に達成していません。

今後の改善点としては、ダイヤ・便数など利用者のニーズを捉え、利便性向上に努めます。また、路線沿線の全世帯に時刻表の配布を行うことで利用促進を図りたいと思っています。

次に山代大聖寺線ですが、これは山中温泉から山代温泉東口、上河崎、大聖寺、加賀市民病院へと運行している路線です。こちらも1便あたりの乗車密度は、4.0人と目標の5.0人に達していません。近年は、高校生の自家用車での送迎が増えており、バスの利用が低下していますが、山中温泉から大聖寺実業高校へ行く系統については、若干の黒字であります。事業の今後の改善点としては、沿線の高等学校と連携を図り、ダイヤの見直しを検討するとともに、特に高校生の利用促進を図りたいと思っています。また、路線沿線の全世帯に時刻表の配布を行うことで利用促進を図りたいと思っています。

次に温泉大聖寺線ですが、3月14日に実証実験として新たに運行を開始したものです。加賀温泉駅から松が丘、大聖寺駅、加賀市民病院の経路で運行しています。こちらも1便あたりの乗車密度は、0.8人と目標の5.0人に達していません。高校生の利用がもう少しあるかと思いましたが、ほとんど利用がないということで大変苦戦しています。7月以降は50人前後で推移しており、若干の増加傾向にあります。この路線については、加賀市民病院の横にある加賀看護学校の学生が、4月に開院する加賀市医療センターまでの移動手段として利用を予定していると聞いており、それに合わせたダイヤ設定をして利用促進を図りたいと思っています。また、路線沿線の全世帯に時刻表の配布を行うことで利用促進を図りたいと思っています。

最後に吉崎線ですが、3月14日に加賀温泉駅から大聖寺駅まで延伸を行い、加賀温泉駅から上河崎、大聖寺駅、加賀市民病院、塩屋の経路で運行しています。1便あたりの乗車密度は、2.3人と目標の5.0人に達していません。今後の改善点としては、加賀看護学校の学生の利用が4月からあると思うので、それに合わせたダイヤ設定をして利用促進を図りたいです。また、路線沿線の全世帯に時刻表の配布を行うことで利用促進を図りたいと思っています。

議長

続いて、キャンバスについてお願いします。

委員

まずキャンバスの事業主体はまちづくり加賀であり、運行主体は業務委託先の日本海観光バスになります。

補助対象となっている路線は小松空港線で、1日5便運行しています。ダイヤが利用者の使いたい時間と合わないなどの理由から、1日の乗車目標5.0人のところ3.8人という結果になりました。今後は、小松空港の利用促進などを目的として、キャンバスの割引特典が付いた旅行商

品の販売を大手旅行社と進めるなどをし、目標の達成を図りたいと思います。

議長

会議資料に基づき、事業評価・達成状況について説明をしていただきましたが、いずれの路線も目標とする平均乗車密度には達していないとのことでした。系統毎の乗車密度は、会議資料の6、7ページに記載されています。

委員の方からの質問、意見はないでしょうか？

委員

この評価については、国の補助制度であり難しい部分もあるかと思いますが、補助をするにあたり、事業者には何らかの検証をして欲しいと思っています。どの事業でも、計画、実行、検証、改善ということをお願いしているため、このような形で事業評価をさせてもらっています。

最近、補助金が有効に使われているかということで、国も厳しく見えています。この事業評価についても同様です。地域の方が集まり、効果的な政策について考えていただきたいと思うので、このような場を設けていただき大変ありがたく思います。

私は、2年前にこの事業を担当していたが、全路線において目標を達成していないという状況は、関係者にとっても良くないと思います。目標が今の実態にあってないのではないのでしょうか？例えば、現時点では目標の設定は「乗車密度」としているが、もし「乗車人員」としても問題がなければ、変更するのも一つの手だと思います。達成しやすい目標を立てるのも一つの作戦ではないのでしょうか？

今後の改善点で、地域の方たちに時刻表を配布するとのことですが、加賀市においては、数ヶ月前にバスの乗り方教室を開催され、NHKでも報道され非常にありがたく思っています。

京都でバス事業者を対象にしたシンポジウムがあり、そのテーマは、高校生の利用が全体の利用状況に非常に影響しやすいため、どのようにしたら高校生に利用してもらえるか？でした。京都では、卒業する高校3年生、入学する1年生に時刻表を直に配布し、今のバスの実態を踏まえて乗ってもらうというセールスを行っているバス事業者もいます。親から送り迎えが面倒だからバスに乗るように言われるよりも、自分で考えて地域のためにバスに乗るということを考えてもらうのも作戦ではないかと思えます。

議長

目標について、乗車密度から乗車人員に変更することも考えられるのではないかと提案でした。

委員

目標を乗車人員で設定できるかは、現在は担当を外れているため定かではないので、一度、担当者に確認してください。

議長

事業者や路線バスの運転手、それに関わっている方々にとって、全く目標を達成できなかったというのは、非常に辛いと思います。目標の設定を工夫することで、階段は低くなってしまいか

もしれないが、少しずつでも上がることでモチベーションも上がると思います。それが相乗的な効果を生んでいくという趣旨だと理解しました。

委員

追加で、事業評価はこちらでも再度評価するのが、目標を達成していないということは、当然評価も下がります。目標は、各市町が独自で設定するものであるため、高めに設定するところもあれば、低めに設定するところもあります。目標を達成出来てないないということは、最終的に国で評価した際にどうしても評価が下がってしまいます。それよりも、目標を達成しやすいものにするのも一つの方法ではないかと思います。

議長

事業者も努力しているので、そのプロセスも評価できると思います。結果やプロセスを評価しようとする数字しかない。その出し方を検討していきたいと思います。

加賀温泉バスの説明の中で、高校生の乗車に期待していたとあるが、生徒がバスを待つバス停の状況は、冬季はそうとう厳しいものとなっています。道路の吹きさらしの所にバス停だけがあり、そこでバスを待つという状況です。バス停を建物に近づけることはできるのでしょうか？

委員

予算があれば市が上屋を建ててくれると一番良いが、お金がかかると思います。

事務局

バス停の上屋ですが、市内には上屋のあるバス停は何箇所もありますが、いずれもバス停を持つ町内会などが自ら設置したものです。市やバス事業者が設置したものは無いという現状です。

議長

ご意見はありませんか？今回の事業評価について、この内容で承認をいただくということでしょうか？

では、異議がないようですので承認とさせていただきます。この事業評価につきましては、北陸信越運輸局において再度評価が行われます。

それでは2つ目の議事になります。会議資料8ページの生活路線バスの利用状況等について、事務局から説明をお願いします。

事務局

会議資料と併せて、パンフレット『乗ろっさ！電車・バス』のバス路線図の箇所をご覧ください。このパンフレットについては、毎年3月のJRのダイヤ改正後に更新し、バス路線沿線の世帯、市内高校の生徒へ配布しています。

今年3月に新設した温泉大聖寺線はパンフレットでは赤色の路線になります。延伸した路線としては、吉崎線と温泉片山津線があります。吉崎線は、パンフレットでは茶色の路線で、大聖寺駅から加賀温泉駅まで延伸しました。温泉片山津線、パンフレットでは緑色の路線で、石川病院まで延伸しました。

利用状況についての説明は、加賀温泉バスにお願いしたいと思います。

委員

路線バス利用状況ですが、まず温泉大聖寺線です。この路線は加賀市民病院から加賀温泉駅へ行くものと、加賀温泉駅から加賀市民病院へ行くものがあります。市民病院発の方は各日平均21.6人、各便平均2.4人とまだまだ少ない状況です。加賀温泉駅発の方も、各日平均24.3人、各便平均2.7人とあまり変わりません。実乗車人数の各日平均は、4月が39.4人であったが、その後増加傾向にあり、7月以降は50人前後で推移しています。高校生の利用はありませんが、今まで路線バスがなかった松が丘での利用が増えています。4月以降は、加賀看護学校の生徒が利用すると思われるので、ダイヤの見直しも考えており、利用者の増加に期待しています。

次に吉崎線ですが、塩屋発の各日平均13.6人、各便平均4.5人、加賀温泉駅発の各日平均16.2人、各便平均4.0人となっています。実乗車人数の各日平均は、4月～7月は30人前後で推移しました。夏休み期間の8月は塩屋・吉崎の中学生の通学利用がなかったことから23.0人に減少しました。9月以降は9月が31.5人、10月が39.0人、11月が32.6人と回復しました。延伸部分においては、「イオン加賀の里前」の定期的な利用があり、特に店舗でイベントがある日などは、利用者が多くなっています。こちらも今後、加賀看護学校の生徒の利用あると思われる、現在1日7便のうち4便が加賀市民病院に乗り入れているが、残りの3便も入れ、7便全て加賀市民病院への乗り入れを計画しています。看護学校の生徒の利便性向上に努めたいと思っています。

次に温泉片山津線ですが、3月14日より17時50分発便を増便しました。各日平均69.9人、各便平均で8.9人でした。実乗車人数の各日平均は、4月～11月を通じて70人前後で推移しています。石川病院での実乗車人数の各日平均は、4月～11月で3.8人となっています。

なお、新幹線効果がこちらにも波及したのかは分からないが、増便や延伸の影響もあり、会社としては1割強の増収となっています。

議長

ありがとうございました。

3月14日の北陸新幹線開業に合わせて新設した温泉大聖寺線、延伸した吉崎線、温泉片山津線の利用状況について、資料に基づき説明していただきました。

来年4月には加賀温泉駅前に、加賀市医療センターが開院します。いずれの路線についても利用者の通院利用があるのではないかとということで、利用状況の変化が想定されます。

病院もバスの乗り入れに配慮した、玄関に大きなフードの付いた構造になっています。

ご質問、ご意見はございませんか？

事務局

路線バスの利用促進に関する、報告と説明をさせていただきます。会議資料の11ページをご覧ください。

こちらは、協議会の事業として、「路線バスふれあい体験教室」を10月26日に作見小学校の2年生を対象に開催したものです。加賀温泉バスの職員の方から「加賀市の路線バスについて」や「路線バスの乗り方」、「バス車内でのマナー」などについて説明していただきました。路線バ

スに乗ったことがないという子供たちもたくさんおり、興味津々に説明を聞いたり、バスに乗車していました。事業開催後には、生徒からお礼の手紙がバス会社に届きました。

次に、会議資料13ページですが、こちらは加賀温泉バスから説明していただきます。

委員

まず13ページからですが、温泉大聖寺線で「ロケバス」を始めるという案内です。こちらは、運転手のポケットにスマホを入れておいて、バスに一台スマホを置くことで、お客様がバスロケQRコードを読み取ると、バスがどこを走っているか分かるというものです。

金沢市ではバスロケーションとって、金沢市内全路線の停留所にランプがつくことになっています。こちらにはランプはないが、実証実験ということで、温泉大聖寺線は1両のバスで1日走っており、積み込むスマホも1台で済むためこの路線を選びやっています。冬になるとバスが遅れたりすることがあるが、自宅にいてバスが何分遅れているかなどが分かります。高校生の利用が増えればと思っています。チラシを沿線世帯に配布、また、大聖寺高校、大聖寺実業高校へこのパンフレットを持参し、利用促進を図っています。業者へアクセス数を問い合わせたが、まだ出ていないということであり件数は把握していないが、これで路線バスに興味を持っていただけたらと思います。

次に14ページの「親子でバスお試し乗車体験」ですが、「ふれあい体験教室」に参加した生徒に親子で乗ってもらえないかと思い、このような乗車体験のイベントを開催しました。親子で3往復分の無料乗車券6枚を配布しました。1度チラシを配布したが反応が少なく、先着50名で募集したが3組で10名の参加でした。後日、再度、新聞を使い宣伝するので、親子で参加してもらえたらと思います。また、抽選で3000円分の回数券もプレゼントします。

このような機会を利用促進に繋げていきたいと思っておりますので、みなさんのご協力お願いします。

議長

ありがとうございました。

具体的な利用促進の取り組みについて説明がありましたが、ご質問などはありませんか？

委員

キャンバスも高校生の利用を期待し、回数券の作成などを行っています。しかし、現状として、大聖寺高校及び大聖寺実業高校の前には、親や祖父母が送迎をしている姿が見られます。そこに大きな問題があるのではないのでしょうか？

高齢者については、便数が増えたので行きはキャンバス、帰りは温泉バスを使うと言うように使い分けていただいています。高校生の利用を増やすための取り組みをこの協議会で具体的に検討する必要があると思います。

今後も一生懸命取り組みますが、皆様と方策を考えていけたらと思い発言させていただきました。

議長

他にご意見、ご質問ありませんか？

このような利用促進のための取り組みについて委員の皆様には、情報共有をし、広く周知されるような様々な機会を通じて発信していただきたいと思っております。

では3つ目の議事、乗合タクシーの実施状況と運行改善の方法についてです。事務局より説明をお願いします。

事務局

加賀市乗合タクシーの実施状況と運行改善の方向性についてです。会議資料は15ページになります。

まず、実施状況ですが、平成27年10月1日に運行を開始し、市が加賀第一交通に運行委託をして実施しています。

利用方法の周知としては、利用案内パンフレットを「広報かが」10月号に折込み全世帯へ配布しました。また、市公共施設にも配置しました。その他、利用者説明会を各地区会館や町の集会所で開催しました。

利用促進の取り組みとしては、職員が個別の利用希望者から行き先や利用時間などを聴いて、その人に合った便の選び方などを説明・相談する「相談会」を開催しています。また乗合タクシーが、市民に広く親しまれ、日常の移動手段として多くの利用がされるよう愛称を募集しています。

利用状況については、別添の「資料」をご覧ください。1ページ目が利用状況になります。10月1日～12月20日まで、延べ81日間の利用状況です。乗車人数の状況は、全体では709人の乗車があり、1日平均8.8人の乗車がありました。709人のうち、障害のある方の乗車は、169人でした。

平日・土日祝日別で見ると、平日の1日当たり平均は10.9人、土日祝日は4.5人と平日の方が多くなっています。

次に便ごとの乗車人数です。平日の各地区から加賀温泉駅方面へ向かう便の利用状況については、9:15出発便の利用が全体の63.9%で最も多くなっています。これは、この時間に通院を目的とした利用が多いためです。加賀温泉駅から各地区方面へ向かう便の利用状況については、10:30出発便、12:15出発便の利用が多くなっています。これは、市民病院や医院から帰るためにこの便を使う利用者が多いためです。

3ページには、土日祝日の利用状況を記載しています。

次に、4ページですが、こちらは、乗車した地点を集計したのになります。各地区から加賀温泉駅方面へ向かう便については、橋立地区での乗車が最も多くなっています。これは、橋立地区では地元が「橋立地区乗合タクシー」を過去7年間程運行していたため、その利用者が市の乗合タクシーの利用に移ったためです。

次は5ページの行き先状況です。1位に加賀市民病院、2位に久藤病院、そして8位に山中温泉医療センターと、大きな病院が上位に入っています。5位には共通エリアにあるアビオシティが入っています。加賀体育館も多くなっているが、これは高齢者向けの体操クラブへの参加のための利用があるためです。3位の加賀温泉駅は、エリアを跨いでの乗継ぎ利用や電車への乗継ぎ利用をされる方がいるため多くなっています。

5、6ページには、病院関係、買い物関係、その他とジャンル別に集計し直した表を記載しています。7ページは、共通エリアでの乗継ぎ利用の状況を集計したのになります。全体で14

人の方が乗継ぎ利用をしています。

次に、利用者アンケートの結果についてです。会議資料は8ページをご覧ください。

10月1日～11月8日までの利用者54人に郵便でアンケートを送付しました。内45人から回答がありました。

要点として、8ページの「問4・乗合タクシーは便利だと思えましたか。」の問いに、7割を超える方が便利だと回答しました。9ページの「問5・便の予約は簡単にできましたか。」については、7割を超える方が簡単にできたと感じています。「問6・乗合タクシーを使って、よく行くと思う場所をお書きください。」については、よく行くと思う病院・医院は、加賀市民病院と4月に開院する加賀市医療センター、山中温泉医療センターの3つが上位になっています。「よく行くと思う商業施設」については、アビオシティ、イオンが上位に入っています。10ページの「問7・目的地に着くまでにかかる時間は、最大でどれ位まで我慢できますか。」という問いに、最大で20分程度までとした人が最も多く、60分を超えて我慢できる人は1割未満となっています。利用料金については、「問8・1回の乗車につき500円の料金設定についてどう思いますか。」の問いに、半数以上の方が「適当である」と回答しました。高いとした方は1割程度に留まっています。「問9・共通エリアで乗継いで他のエリアへ行く場合、乗継ぎ料金500円がかかりますが、これについてどう思いますか。」の問いについて、4割を超える方が、乗継ぎ料金がかかるのはやむをえないと回答しています。その一方で、乗継ぎ料金はかからない方が良かった人も25%程度います。「問11・来年4月に加賀温泉駅前での新しい病院、加賀市医療センターが開院しますが、そこへの通院は乗合タクシーを使いますか。」の問いに、7割以上の利用者が、乗合タクシーを使うと回答しました。「問12・今後、日常の移動手段としてはどの交通手段を使いますか。」の問いに、乗合タクシーを使うと回答した人は43.4%となっており、乗合タクシーを利用している方は、今後も使っていくと思われれます。

ここまでが、利用者アンケートの集計結果となっています。

議長

利用者からのアンケートから、今後の改善点などが見えてくると思いますが、行き先の中心となることが予想される加賀市医療センターがまだ開院していないので、今後、利用に関しては、ある程度の伸び代はあるのではないかと思います。

ご意見などありませんか？

まだアンケートの数も実際に利用した45人ということなので、それほど多くはないが、傾向的には出ているのではないかと思います。今一番大事なことは「乗合タクシーに乗っていただく」ということです。

事務局

次に会議資料の17ページを説明したいと思います。利用者や運転手からの主な意見や要望の内容と、今後の改善に向けた方向性を取りまとめたものです。

利用者や運転手などからの主な意見や要望を踏まえた「利便性の向上」と、利用者負担及び行政負担の面から見た「費用の負担」のバランスに留意して、平成28年4月1日の運行改善に向けた検討の方向性を整理しました。

まず左側の欄は、利用者からの意見や要望、右側の欄は、現状と今後の検討の方向性を提案す

るものとなっています。

まず、「(1)運行ダイヤに関するもの」に対しては、「便数を増やしてほしい」、「便の時間を使いやすいものにしてほしい」、「市の新しい病院(加賀市医療センター)まで行くのに1時間以上もかかるのでは使いにくい」との意見や要望があります。

これに対する現状は、現在の運行ダイヤは、「ジャンボタクシー4台の廻し」により運行することを基本として組んでいます。ジャンボタクシーの乗客定員8人を超える予約があったときは、セダン型車両を「追加便」として配車することとしています。便数については、平日は、エリア①が市民病院へ行く便を設けているので9便と多くなっています。逆に、エリア③の東谷コースは、1便の走行距離が長い関係上、6便と他のエリアと比べ少なくなっています。

これらを踏まえ、今後は、便数の増加や、運行時間を使いやすいものにするなどについては、次のことを念頭に置いて検討します。運行開始から3か月経過の現時点では利用状況データが不十分であること、また、加賀市医療センター開院後の利用動向データがないことから、今後、これらのデータを十分に踏まえていきます。また、「勅使・東谷口乗合タクシー」が平成28年3月末までは運行されることを踏まえて、エリア③東谷コースの現在の運行ダイヤは、平日の便数が少ない暫定的なものとなっているため、この見直しに留意します。来年4月に行う見直し後も、必要に応じて改善を継続していきます。これらを踏まえ、ダイヤの見直しを行っていきたいと思っています。

次に「(2)運行エリアや乗降地点に関するもの」に対しては、「現在の「各町停留地点」は家から遠いのだが、変更できないのか」、「自宅まで迎えに来てほしい」、「乗継ぎをしやすいようにしてほしい」、「乗継ぎなしで市内のどこへでも行けるようにしてほしい」との意見や要望があります。

まず、「各町停留地点」について、これに対する現状は、各町に設けている「各町停留地点」の箇所数は415か所であり、「各町停留地点」の場所を決めるにあたっては、各町の区長に1~2か所程度の選定を依頼して行ったところです。

今後の検討の方向性については、次のとおりとします。「各町停留地点」は、箇所の追加や使いやすい場所への変更など、充実を図る方向で検討し、現在、各町区長に再度の選定を依頼したところであり、自宅まで迎えに行くことは、将来的な課題の方向とします。住宅の一軒一軒を探すのは時間がかかるため運行時間が延びることが懸念され、その関係上この件は課題とさせていただきます。

次に、「乗継ぎ」についてですが、乗継ぎとは、乗合タクシーは基本的にエリアごとに運行しているため、エリア内での移動、共通エリアへは、1回の乗車で行けます。しかし、エリアを跨いで移動する場合は、共通エリアで一旦乗継ぎをする必要があります。その乗継ぎをしやすいように、又はしなくても良いようにしてほしいという意見があります。

これに対する検討の方向性は、次のとおりです。乗継ぎをしやすくするため、運行ダイヤの見直しでは、各エリアの運行ダイヤ間の適切な接続に留意します。乗継ぎなしで市内のどこへでも行けるようにすることは、将来的な課題とします。ただし、「共通エリア」の範囲については、運行時間が長くなりすぎないことに留意した上で、広げられないかを検討します。なお、イオンについては、12月1日からいずれのエリアからも乗入れできる運用としています。

続いて19ページになります。「自宅に帰るときの降車地点は、「各町停留地点」に限らず、通り道沿いであれば途中のところで降ろしてもらえないか。」との意見についてです。

これに対する現状は、自宅に帰るときの降車地点は、「各町停留地点」としてしています。そのため、「各町停留地点」に向かう経路沿いに自宅がある場合も、自宅を通り過ぎたところで降車することになります。

今後の検討の方向性としては、原則、自宅に帰るときの降車地点は、これまでどおり自宅最寄りの「各町停留地点」とします。ただし、各便の予約人数の状況からして、「各町停留地点」以外の場所で降車しても運行時間に支障はないと運転手が判断できるときは、「各町停留地点」に向かうための客観的に効率的な経路上であれば、「各町停留地点」以外の場所でも降車できる方向で検討します。

次に、「(3)利用料金に関するもの」に対しては、「1回の乗車500円を安くしてほしい」、「乗継ぎ料金をなくしてほしい」、「高齢者割引をしてほしい」との意見や要望があります。

これに対する現状は、1回の乗車につき利用料金は500円であり、乗継ぎ利用のときは、再度500円がかかります。身体障害者手帳などを持っている方は半額で乗車できます。

今後の検討の方向性としては、「1回の乗車につき500円」は変えない方向で検討するが、乗継ぎ料金は軽減する方向で検討します。高齢者割引については、路線バス・一般タクシー・電車等でも行われていないが、今後の検討課題とします。

次に「(4)利用予約の方法に関するもの」に対しては、「予約制でないようにしてほしい」、「携帯電話を持ってない高齢者は、出かけ先から帰り便の予約電話をすることは難しい」、「診察の終わる時間が分からないので、帰り便の予約がしにくい」、「例えば、診察が終わって病院の玄関を出たときに、たまたま乗合タクシーが停車していた場合に、座席に空きがあるときは、予約をしなくても乗せてもらえないか」との意見や要望があります。

まず、予約制について、現状は、乗りたい便の出発時刻の1時間前までに加賀第一交通へ電話などで予約する必要があります。

これに対する今後の方向性としては、加賀市医療センターには、乗合タクシー専用の直通電話を設置し、携帯電話がなくても加賀第一交通へ連絡ができる方向で検討します。また、民間の病院・医院から予約をするときは、公衆電話で連絡をするのが基本になると思われるが、利便性がよくなる何らかの方法について、今後の検討課題とします。

帰りの便の予約がしにくいことに対する今後の方向性としては、利用するときは、あらかじめの予約が必要とする原則は変えないが、たまたま停まっていた便に乗りたいとするときは、運転手に声をかけて、運転手が予約受付係に確認をし、空き座席があった場合は乗車できるといった運用の方向で検討します。

最後に「(5)その他」ですが、「各町の停留地点には、そのことが分かる表示をしてほしい」、「試乗会をしてほしい」、「乗合タクシーをPRするボランティアを各町に置いたらよいと思う」、「免許返納者には乗車回数券を渡すとよいと思う」との意見や要望があります。

各町停留地点を表示する看板類に対する今後の方向性としては、当面、設置しない方向とします。各町停留地点は、主にそこに住む人が乗降する場所であるので、看板類がなくても概ね認知されています。

試乗会に対する今後の方向性としては、老人クラブなどを通じて現在開催している「利用相談会」において、「無料お試し乗車券」を参加者に配付しており、これを継続する方向で検討します。

乗合タクシーをPRするボランティアを設けることに対する今後の方向性としては、市民参加による「(仮称)加賀市地域交通サポーターズクラブ」のようなものの設立を検討する方向としま

す。

免許返納者に乗車回数券を渡すことについては、加賀市交通安全協会が、免許返納者への返納支援の交付品として、乗合タクシー乗車回数券を加えることで、協会内で検討が進んでいます。

以上が、利用者からの意見などを交えた今後の見直しの方向性となります。

議長

委員皆様からのご意見をお聞きする前に、平成20年から乗合タクシーの運行を行っている「勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会」において、加賀市乗合タクシーに関する提案を取りまとめられたとのことですので、運行協議会の事務局長から説明いただきたいと思います。

委員

先日、勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会の役員会が開催され、その時に市の乗合タクシーに4月から移行するということに関して、役員から様々な要望がありました。利用者からの声も多くなってきたため、この場で提案をします。

我々の広報誌「のりあい号」では、「10月以降も変わりません」と大きくPRをしました。これは、大聖寺・南郷地区へ行くための「乗継ぎ」という問題があり、利用者や地区の区長会でも加賀市医療センターが開院するまでは運行を続けてほしいという要望があり、昨年秋に続けることを決定しました。市の「乗合タクシー」と「のりあい号」、名前が似ているため間違えないか心配だったため、9月に3地区17町、全利用者に対する説明会を開催しました。来年3月には、移行に伴い、市の乗合タクシーの説明会を開催することになっています。しかし、市の乗合タクシーの情報がどんどん入ってきているので、利用者からの意見が多くなってきています。それを踏まえて今回提案をさせていただきます。

提案は全部で5つあります。

まず、1つ目は、高齢者の利用が多いことに対応したシステムについてです。

この8年間、高齢者は「会話が遅い」、「耳が遠い」ということで、ずいぶん誤解が起きてきました。そのことを理解したシステムにしないとイケません。「予約は各便出発時間の1時間前」と言うのは、パンフレットを見ても8割くらいの方が理解できていません。予約時間を何時までや、乗る地区の出発時間の何時間前とした方が分かりやすいと思います。我々の地区でも、出発の1時間前までと話したら、前は2時間前だったのに1時間になったと喜んでいましたが、よくよく見ると出発時間の1時間前となっていました。また、乗継ぎの予約を高齢者にとって簡単なものにして欲しいと思います。この地区では運営委員を設けて、頻繁に利用者の相談にのっています。今後、相談できる場がなくなるということに対する不安が多くあります。市も、応援部隊の設置を検討したいとのことだが、ぜひそのような制度にしてほしいと思います。

2つ目は、利用者の行動パターンに合わせた運行ダイヤの設定についてです。「のりあい号」を続けた理由が、病院が大聖寺にあるからと言ったが、もう一つあります。それは市の乗合タクシーでは、午前中に2往復できないからです。利用者は、朝早くに病院へ行き、午前中に家に帰りたい。また、10時頃に買い物や病院へ行き、お昼頃には帰りたい。この要望がかなり強く、利用者から、今の市の運行ダイヤでは利用できないと言われていました。ダイヤ表は、統一のダイヤ表では分かりにくいので、各地区に対応したダイヤ表を発行してほしいという意見が多くあります。

3つ目は、他エリアへの乗継ぎについてです。市民病院を除いても、大聖寺、南郷地区へ行く人が全体の3割程います。そこで調べてみたところ、動橋川流域には大きな病院や公共施設がありません。大聖寺川流域に集中しているため、動橋川流域の人たちは、大聖寺へ行かなければならないのです。地区の人たちの意見では、乗継ぎをなくせないのか、地区からは大聖寺へ行けないのかと多く聞かれます。乗継ぎをなくせない場合は、乗継ぎの際の移動距離を10m以内としてほしいです。また、待合場所は、風雨雪に耐えられる場所にしてほしいという意見が多いです。利用者の半分は足が悪い人であるため、ジャンボタクシーでも段差があり、セダンが来るとホッとするという意見もあるほどです。

4つ目ですが、エリア名は分かりやすくしてほしいです。

5つ目ですが、利用者数に応じて、運行委託先にもメリットがある制度にして欲しいです。運転手や会社にもやりがいが必要だと思います。

議長

事務局から現状と改善、8年の実績がある、勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会からの報告と提案がありました。これらを踏まえ、委員の皆様からのご意見をいただきたいと思います。

現在、乗合タクシーの運行をしている第一交通さんお願いできますか？

委員

8年の実績がある、勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会の要望などをいただきました。市の乗合タクシーの勅使・東谷口地区のダイヤを見ると、やはり使いづらさがあることは理解しています。今は並行して運行しているが、ほとんどの人が既存の勅使・東谷口乗合タクシーを利用しています。4月になり、加賀市医療センターが開院し、勅使・東谷口の乗合タクシーがなくなったための、市の乗合タクシーの運行ダイヤを見直すことも課題として考えています。利用者の行動パターンに合わせて、運行ダイヤの設定を行うという話もありました。朝に病院へ行き、午前中に家に帰りたい。これは切実な願いだと思っているので、それを踏まえてダイヤを見直していきたいと思っています。

エリア名が難しいということもありましたが、エリア①、エリア②、エリア③と言われても、ピンとこないと思い、市の乗合タクシーの予約受付の際には、どこからどこまで行くのかを尋ね、どの便へ乗りどこまで行くのかをお伝えしています。乗継ぎが必要な場合も、乗継ぎ方法を丁寧に、ゆっくり説明しています。その中で理解される方もいますが、乗継ぎをすると、再度500円がいるのかという話になるときもあります。行けば帰らないといけない。往復2000円になると使いづらい、何回も行けないという声もあります。料金については、市に検討をしていただきたいと思っています。

予約時間が分かりづらいということがありましたが、現在の勅使・東谷口乗合タクシーの予約は、1週間前から当日の予約便の2時間前までとなっています。市の乗合タクシーは、1週間前から便の出発の1時間前までとなっています。こちらは、説明すれば分かってもらえるのではないかと思います。

乗継ぎが難しいということはあると思います。今まで直行だったのに、乗継ぎが必要になるのは、かなり抵抗のあることだと思うので、こちらも乗継ぎ時間など、利用者に負担がないように考えていきたいと思っています。

地区発のダイヤ表があれば良いという意見に関しては賛成です。説明会で説明することも良いと思うが、自分の町からのダイヤ表があれば一番良いのではないかと思います。こちらも市へお願いしたいと思います。

目的地まで時間がかかるという難点が、今の乗合タクシーにはあると思います。こちらは乗合という意味を利用者に理解していただきたく思います。一般のタクシーではないので、乗車場所から目的地まで直行というのは難しい。一般のタクシーとの棲み分けをしっかりとし、他のタクシー会社とうまくやっていきたいと思います。

議長

実際に運行している立場からのご意見ありがとうございました。

アンケートなどの中で、障害のある方の利用についての話もありましたが、何かご意見はありませんか？

委員

私も説明会に参加させていただきました。その中で、一度試験的に乗車してみようという話も出ています。来年実現できたらと思います。

議長

事務局にはそのような利用にぜひ協力をしてほしいと思います。

他にご意見ありませんか？

委員

この件については、本会の役員に対して市から説明していただきました。その他、町で説明会も開催してもらったが、元気な方が多いので自家用車を使うと言い、全体的に切実な感じはあまりありません。やはり料金が高いということで、今のところ利用したいという反応は少なく、真剣に考えている様子はありません。

事務局

みなさん、若くて健康なのは良いことですな。

委員

共通エリアを広げること、又は2つ設定することはできないのでしょうか？

例えば、エリア②から市役所へ行くためには、一度、加賀温泉駅で乗継がなければいけない。山代、山中から行く場合も乗継が必要である。利用上、とても不便だと思います。共通エリアを拡大すれば、大聖寺までは、どのエリアからでも直接行けるようにできるのではないかと思います。どうしても乗継が必要であれば、親切丁寧に案内をしていただける案内人のような方が乗継ぎ場所にいればと思います。やはり高齢者には、その場で説明した方が分かりやすいのではないのでしょうか。

事務局

共通エリアを広げられないかということについては、広げる方向で考えていきたいと思っています。事務局としては、大聖寺までは想定していなかったが、加賀温泉駅を中心に8号線あたりまでを想定しています。委員の意見は、今後の参考にしたいと思います。

議長

山中温泉は路線バスが通っており路線バスとの関係もあると思いますが、ご意見ありませんか？

委員

うちの地区は、山中温泉といっても温泉街から離れています。路線バスが何十年前に廃止されているので、その時点で、自己完結となっています。そのため、今のところ利用はあまりないと思います。バスが廃止になった時点で、このようなものがあれば、もしかしたら利用したかもしれません。

議長

みなさん元気なので、自分の問題として捉えていくのはまだ時間がかかるのかと思います。

委員

タクシーの乗務員の立場から問題提起させていただきたいと思います。

料金500円については妥当かと思います。乗継ぎについても、利便性が良ければ良いと思うが、時間がない利用者は、一般のタクシーを利用すると思います。また乗継ぎ割引を導入しても良いのではないかと思います。

現在の乗継ぎ場所は、加賀温泉駅となっており、今までお迎えのタクシーが停車していた場所が、乗合タクシーの乗継ぎ場所になっています。そのため、一般のタクシーは、その場所に停車しないようにしています。ジャンボタクシー専用の乗り場を作ってもらえると助かります。

議長

乗合タクシーだけでなく、今までの議論を踏まえて、何かご意見はございますか？

委員

今日の議論を聞かせていただき、公共交通としてのタクシーの需要が増してきているということを感じました。既存の路線バスもあるので、棲み分けをしながら利便性の高いものにしていければ良いと思います。

議長

地域交通ということになると、加賀市の場合、観光もありますが、観光面からのご意見もお願いします。

委員

観光面においても地域交通は課題となっているので、本日の会議の内容を参考にさせていただきたいと思います。

委員

観光についてですが、最近、市内の旅館のほとんどがバスを所有し、加賀温泉駅までお客さんのお迎えに行っています。これをやめることはできませんか？旅館もバスを購入し運転手を確保しなければならず、辛い部分があります。旅館のお客さんが路線バスを使えば、路線バスの利用客がもっと増えると思います。

委員

ご意見として賜ります。

議長

皆様からご意見をいただきましたが、他にありませんか？

加賀市としても、乗合タクシーは当分の間、実証運行が続くと思います。利用者からの意見を分析し、より使いやすいものにしていくことが必要とだと考えています。加賀市医療センターが開院する来年4月が一つの見直しの時期になると思いますし、その後も随時、見直しをすることが必要と考えられます。本日いただきました委員皆様からのご意見を踏まえて、検討を進めていきたいと思っています。

それでは最後の議事となりますが、会議資料22ページの「おでかけ応援車両」の今後の運行について、事務局から説明をお願いします。

事務局

会議資料22ページになります。「おでかけ応援車両」の今後の運行についてです。

まず、おでかけ応援車両とは、高齢者や障がい者が、民間病院や自動車学校などが患者や生徒等の送迎のために運行する自家用送迎バスの空席を利用して移動することができる交通サービスです。利用対象者は、加賀市に住所を有し、路線バス又は乗合タクシーが通っていない地域に住んでいる一人でバスの乗降ができる65歳以上の高齢者又は障がい者です。あくまでも、交通空白地域を埋めるため、補完的に行っているサービスです。利用料金については、運行は事業者の自家用運送であることから、道路運送法上、利用料金は取れないこととなっています。協力事業者として、加賀自動車学校、久藤総合病院、ケアハウス和の3事業者に協力していただいています。

次に利用状況ですが、平成18年度に運行を開始し、利用が一番多い年度は、バス路線が大きく廃止した直後の21年度、22年度が、年間5000人を超える利用がありました。26年度では、約1100人。バス路線が増えたこともあり、利用は減っています。

利用登録者は、現在103人です。

今後の方針として、おでかけ応援車両は、生活路線バスや乗合タクシーを補完するものとして実施してきたが、「加賀市乗合タクシー」の市内全域での運行を開始したことにより、平成27度末までで、おでかけ応援車両を終了する方向で考えています。廃止が決まり次第、利用者へ個

別に案内をし、また乗合タクシーのお試し乗車券を配布することで、乗合タクシーへの利用の移行を促します。

議長

協力を得て実施していたおでかけ応援車両は、加賀市乗合タクシーが市内全域で運行が開始されたことを受け、本年度末までをもって終了する方向で考えているとの説明がありました。

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはどうでしょうか。

この案件について異議はないようですので、承認とさせていただきます。

他に委員の皆さまからのご意見などはどうでしょうか。

委員

乗合タクシーに関して、それぞれの立場から、ご意見やご提言をいただきました。10月1日から始めて2か月半になりますが、まだ実証運行ということで、課題ばかりが出てきています。

今回いただいたご意見や、利用者からのアンケート、また運転手などからの意見を基に、4月1日の加賀市医療センター開院に向け、運行内容の見直しを検討させていただきたいと思っています。2月の会議で、ある程度の方向性を示したいと思います。

議長

改善、検討などの案件につきましては、2月に会議を開催し、報告したいと思います。

長時間のご審議ありがとうございました。

これをもちまして本日の会議は終了いたします。

ありがとうございました。